

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

# sanbi-i-com (No.143)

## コンテンツ緊急電子化事業(緊デジ) ②

### — 配信(販売)ルートについて —

今回は、緊デジで制作した電子書籍の配信(販売)ルートについてご説明いたします。

#### ■ お詫びと訂正：申請状況

前回の sanbi-i-com で「申請済みタイトル数は緊デジ特設サイトの公表値によれば 43698 ですので、目標の6万には届かなかったようです」とお伝えいたしましたが、読者の方からのご指摘により、出版業界紙『新文化』オンライン版が 12 月 25 日付で以下のように報道していたことが分かりました。報道が正しいとすれば、どうやら6万は達成されたようです。筆者の早合点で目標未達との情報を流してしまいましたことを、ここにお詫び申し上げます。

#### <報道内容>

・日本出版インフラセンター(JPO)はこのほど、緊デジの最終制作タイトル数が6万 5000 点規模になると発表した。当初の目標である6万点の電子化は

実現する見通し。

- ・10 億円の補助金予算の達成率は 85%程度。
- ・タイトル申請締切日(12 月 20 日)直前に「駆け込み申請」が2万点弱あった。
- ・現在、申請タイトルのデータチェックや内容確認を進めており、確定数は 1 月中旬に発表する予定。

なお、本日(1 月 24 日)現在の緊デジ特設サイト「緊デジ.jp」の公表値は「1月22日現在で、申請済みタイトル数 56,210、補助金達成率 84.2%」となっており、確定数はまだ出ておりません。「申請が殺到しましたので審査処理が遅れています」との一言を載せていることから、駆け込み申請分の処理に相当手間取っている様子がうかがい知れます。

#### ■ 配信(販売)ルートについて

緊デジ.jp に「販売の予定無く電子化だけを依頼したいというご希望にはお応えできません」とあるように、緊デジで制作した電子書籍は基本的に全て配信・販売しなければなりません。

緊デジには「JPO への直接申請」と「出版デジタル機構経由の代行申請」の二通りの申請ルートがありますが、どちらの申請ルートを採用かによって、以下のように配信ルートも違ってきます。

例えば以下のような色々なやり方からの選択や組合せが可能です。

- ・電子書籍の取次(例えばビットウェイやモバイルブック・ジーピー)を通して複数の電子書店に卸す
- ・取次を通さず、複数の電子書店と直接個別に契約して卸す
- ・出版社独自の電子書店(自社サイト)で読者に直販する

#### (1) JPO への直接申請の場合

直接申請で制作した電子書籍をどのように配信するかは、出版社がそれぞれの考え方で自由に決めることとなります。JPO は配信には携わりません。

#### (2) 出版デジタル機構経由の代行申請の場合

同機構が一定期間の独占販売権を持ちますので、電子書店への配信は、必ず同機構を(いわば取次として)通して行うこととなります。

同機構がホームページ上で名前を挙げている配信先電子書店は現在 16 店ありますが、緊デジ.jp の説明によれば、出版社からの要望に沿って配信先を絞り込むことも可能だそうです。

16 店の中には、店名をみただけで運営会社がどこなのかすぐに分かる所もありますが、そうでない店名も多々見受けられます。そこで、各店の運営会社の名前を一通り調べてみました。

#### <16 店 (五十音順、2012 年 11 月現在) の運営会社>

・店名には各サイトへのリンクを付けてあります。

##### 1、[エルパカ BOOKS](#)

(株)ローソン HMV エンタテイメント

→コンビニのローソンの 100%子会社

##### 2、[GALAPAGOS STORE](#)

シャープ(株)

##### 3、[紀伊國屋書店 BookWebPlus](#)

(株)紀伊國屋書店

##### 4、[コープデリ e フレンズ電子書店](#)

生活協同組合連合会コープネット事業連合

→いわゆる生協です。

##### 5、[kobo イーブックストア](#)

Kobo Inc. (本社はカナダ、トロント市)

→楽天の 100%子会社

##### 6、[セブンネットショッピング](#)

(株)セブンネットショッピング

→株主は、(株)セブン&アイ・ネットメディア

(コンビニのセブンイレブンと同系列)、

ヤフー、トーハン、日本電気など。

##### 7、[どこでも読書](#)

(株)モバイルブック・ジェーピー

→株主は、大日本印刷と多数の出版社を含む

27 社(2011 年 7 月 1 日現在)。

##### 8、[TOP BOOKS](#)

NEC ビッグローブ(株)

##### 9、[BooksV](#) (ブックスバイ)

富士通(株)

##### 10、BOOKSMART Powered by BOOKER'S

\*スマホ専用サイトなので、リンクはつけません。

日本エンタープライズ(株)

##### 11、[Book Place](#)

(株)BookLive

→下の BookLive!の運営会社と同じです。

株主はビットウェイ(凸版印刷と多数の出版社を含む 36 社が出資)、東芝、日本政策投資銀行、日本電気、三井物産。

##### 12、[BookLive!](#)

\*サイトの見た目は上の Book Place と殆ど同じです。

(株)BookLive

##### 13、[honto](#)

(株)トウ・ディファクト

→株主は、大日本印刷、NTT ドコモ、丸善 CHI ホールディングス。

##### 14、[本よみうり堂デジタル](#)

(株)読売新聞東京本社

##### 15、[MOBI-BOOK](#)

(株)SmartEbook.com

→JASDAQ 上場。筆頭株主は CEO の安嶋氏。

##### 16、[Reader™Store](#)

ソニーマーケティング(株)

以上を一瞥してお気付きかと思いますが、出版デジタル機構からの配信先には、現在最も注目の電子書店と言ってよいアマゾン Kindle ストアがまだ入っておりません。今回は、緊デジのテーマから離れますが、Kindle ストアの人気ぶりを示す幾つかの調査結果をご紹介します予定です。

(第 143 回: 2013 年 1 月 24 日)